第１回王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定検討会
議事要旨

◇　日時

平成２８年４月２５日（月）午前１０時から

◇　場所

北区第一庁舎　４階　第二委員会室

◇　会議次第

１．開　会

２．委員委嘱（委嘱状交付）

３．区長挨拶

４．委員紹介

５．会長及び副会長の互選

６．検討会の運営について（会議の公開、代理出席、検討部会の設置）

７．議　題

「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定」について

８．閉　会

◇　出席委員

29 名（敬称略・順不同）

会長　　出口　敦

副会長　　関澤　愛、久保田　尚

委員　　前田　英寿、杉崎　和久、上野　雄一、中島　高志、奥山　宏二、三浦　隆
根木　義則、野崎　誠貴、小林　毅久、堀江　雅直、三吉野　育人
米　彰（代理：柳田　和夫）、井上　鉄也（代理：中田　和宏）、新井　隆之
齋藤　邦彦、安藤　昇作（代理：長岡　司郎）、堀江　毅、越野　充博
齊藤　正美、尾花　秀雄、水越　乙彦、依田　園子、中澤　嘉明、浅川　謙治
横尾　政弘、荒田　博

事務局　　佐藤十条・王子まちづくり推進担当部長、藤野王子まちづくり担当課長

◇　議事内容

1．開会

- 事務局より開会宣言

2．委員委嘱（委嘱状交付）

- 机上配付にて委員委嘱

3．区長挨拶

（花川区長）

本日は、委員の皆さま方におかれましては、大変お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また日ごろより北区政に多大なご支援とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。ただ今、本検討会、委員への委嘱をお願いを申し上げ、王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定に向けた議論が本格的にスタートいたしますが、この王子というまち、これまで数々の歴史を刻んできました。その一つとして飛鳥山がありますが、江戸時代に徳川吉宗がこの飛鳥山に桜を植え、庶民に開放したのが 1737 年といわれています。当時、王子周辺は江戸近郊の行楽地として四季を通じて人々に愛されたそうですが、明治時代に入ると一転、製紙業をはじめとする工業都市へと変わり、日本の近代化を支える上で大きな役割を果たしてまいりました。その後、大正時代以降は鉄道、バス、首都高速道路など交通機能の集積が進み、北区の中でもにぎわいの拠点の一つとして位置付けられるなど、徳川吉宗の時代から 280 年の時を経る中で、王子はその顔を大きく変えてまいりました。北区では区議会の了承を得て、新庁舎の建設候補地として国立印刷局王子工場用地の一部取得に係る協議を進め、昨年８月には覚書を締結いたしました。まちが変化し、新たに生まれ変わり始める動きと、これまでの先人たちの努力の基に築かれてきたまちの歴史、その両者を生かしながら、皆さま方と共に王子駅周辺におけるこれからのまちづくりの方向性を定めてまいりたいと考えております。委員の皆さま方におかれましては、活発なご議論を賜りますようにお願いを申し上げてごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4．委員紹介

- 当検討会は 29 名の委員によって構成することの確認
- 委員の名前は委員名簿の配付により確認

5．会長及び副会長の互選

- 設置要綱第５条第２項に従い互選によって会長・副会長を選出
- 久保田委員からの推薦により、出口委員を会長とすることを承認
- 出口会長からの推薦により、久保田委員、関澤委員を副会長とすることを承認

- 会長・副会長からの挨拶

6．検討会の運営について（会議の公開、代理出席、検討部会の設置）

- 事務局より検討会設置要綱の説明
- 検討会委員の構成について確認
- 検討会の公開に関する内規に従い、発言の要旨等は事務局でまとめ、内容を確認のうえ北区ホームページに掲載し、広く区民に周知することを確認
- 検討会の代理出席に関する内規に従い、委員がやむなき理由により欠席する場合は、委任状をもって代理を認めることができることを確認
- 検討部会の設置に関する内規に従い、検討会での議論をより深めるため、都市基盤・開発検討部会と、にぎわい・活性化検討部会の２つの部会を設置することを確認
- 部会は非公開とすることを確認

7．議 題　「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定」について

- 事務局より配布資料にもとづき説明を行った後、質疑応答
- 質疑応答の内容は以下に示す通り

（会長）

事務局からの説明に対して、ご意見等あればお願いしたい。

（事務局）

先ほどの説明の中にあった参考資料の現況写真について、看板等、問題のあるものがあったので、訂正した上でホームページにて掲載することとする。

（会長）

そのようにご配慮お願いする。

（委員）

枠組みに関して２点ある。まず対象区域について、この範囲に留まらず、もっと広く考えるべきではないか。機能性重視から転換し、快適性や安全性などを重視しようという今の都市づくりの大きい流れに沿って、歩行者回遊動線の確保や、滞留スペースの創出などを検討すべきである。王子の駅には多くの交通機関があり、いろいろな人が集まってくる場所であるため、多種多様なニーズに応える必要がある。また、区役所移転後の跡地活用により、将来的に動線も大きく変わってくることも想定すると、より広い範囲で検討すべきではないか。２点目について、具体的にできるのかできないのかある程度見極めをする上で具体的な方策を検討するということは大事であり、具体的な方策をある程度フィードバックし、基本的な考え方に戻すという、ループの作業が重要であるが、あまり現実的なことばかり考えてしまうと縮こまってしまう。グランドデザインでどの辺まで描くのかということを明らかにしておいたほうがよい。

（事務局）
　まず対象区域については、先の説明の通り、まず都市基盤が未整備の区域を中心に今回エリア設定をしている。ただ、アクセスや人の動きなどを含めた他の地域との関係の中で、王子のまちづくりをどういうふうに考えていくかといった点が重要と認識している。検討していく中で、そうした周辺の地域のいろいろな動きとか動向なども踏まえた上で議論いただければと考えている。次に、具体的な方策をどこまで示していくかという点については、議論していく中で、グランドデザインの中で盛り込んでいくものと、次の整備計画に委ねていくものを整理していきたい。
（会長）
　広域的な交通の分析など、対象範囲を広げていくこともぜひ検討をお願いしたい。
（副会長）
　最初に、王子の位置付けをきちんと整理しておかないといけないのではないか。王子駅周辺のまちづくりグランドデザインということに絞った場合、どこまで区としては望んでいるのか。というのも、事業実施を考えると先ほどの発言のように縮こまってしまった絵に終わってしまうという可能性もある。地主さんが「うん」と言ってくれるかどうかそれは別として、本来やはりこうあってほしいなというある程度理想を、構想計画として描いていく必要があるのではないか。ただし、抽象的な言葉だけで終わらせないためにも、どこまで具体的なものを目指しながらも夢を描くのか、区としての考えをお聞きしたい。
（事務局）
　私どもも実は夢を描きたいと考えている。ただし一方で、現実に今動いている交渉や協議があるため、まずは現実に沿った形で語らざるを得ないと思っている。そのエリア以外については、夢を持って北区はどうあるべきかというところについて皆さんのご意見を伺いながら、夢のある北区王子を描いていきたい。部分的に協議に入っているところだけはご理解をいただきたい。
（会長）
　17 ページに参考としてコンセプトが示されているが、恐らくここにこの地域の江戸時代から、あるいはもっと以前からの歴史的な経緯も踏まえて、この地域をいかに魅力的なものにしていこうかというような思いが込められているのではないか。先ほど区長さんがおっしゃっていたが、長年この地域に対しては皆さんの大変強い思いがあって、いろいろなことを実現させようとして、なかなかうまくいってこなかった点もあるかと思う。区役所の移転を契機にして具体的な事業を進めたいという思いと、それからまた夢のある地域をつくっていきたいという、２つの思いがこの「グランドデザイン」という言葉に象徴されているのではないか。計画というとかなり具体的なものになり、構想というとまたかなり長期的なものになってくるが、その 2 つがうまく組み合わさったものとしてこの「グランドデザイン」をつくり上げていきたいというふうに考えている。副会長からは、ぜひ夢のある話を発言に含めていただきたいという思いでご意見いただいたので、その辺も踏まえ

てまた議論を進めていきたい。
（委員）
　今の説明の中で感じたことについて 1 点目は、優位性と言っていることが誰に対しての優位性なのか、何に対しての優位性なのかということがすごく曖昧になっていると感じている。地域間競争が激しくなっていくというのは、東京都の中における周辺区も同じ状況である。そういうことを踏まえて北区でも地域創生の動きを受けて、まち・ひと・しごと戦略などの策定にかかっている。これから 20 年後という話があったが、30 年後、50 年後、100 年後を考えていくとすれば、どこまで、今、優位だと思っていることが優位でなくなる可能性も考えながら、優位性を保っていくための拠点づくりという考え方が一つ必要なのではないか。王子を中心とした職住近接については、事業者の立場で、高齢者の方や女性を雇用していくことを考えると、今、北区から 30 分で都心に通えるという職住近接ではなくて、やはりこの地域の中で職住近接が図られる必要があり、そのための拠点づくりという考え方が必要ではないか。そうすると、東京都や北区の上位計画などに整合させていくというよりは、むしろ上位計画にものを申すといった勢いでグランドデザインを考えていくことも重要ではないか。区のほうでこういう大きな動きが出てくるよと言えば、東京都の考え方は当然そこも含んだ考え方になっていくというようなものが政策だと思っているので、これから議論を深めていく中で、王子が北区のへそになり、それが東京都・世界の中でも大変重要な場所になっていくようなグランドデザインにしていっていただきたい。
（会長）
　今回のこのグランドデザインを策定する上での背景がまだ今回のこの資料の中では十分詰めきれていないのではないかというご意見だったかと思う。ポストオリンピックを見据えて今後人口動態などもどうなっていくのか分からないが、そういった 10 年後か、あるいは 20 年後ぐらいの将来像を踏まえてこの地域間競争がますます激しくなっていく中で、このグランドデザインをきちんと位置付けていくという意味では、背景をもう少しきちんと整理していく必要があるだろうと思う。あと資料の 4 ページ目で優位性についての整理が簡単にされているが、区内部に向けての内向きだけの構想ではなくて、やはり区の外に対して、特に東京都や区の外に対してやはりアピールしていく、そういう意味で夢のある構想をつくっていくという必要性というものを今強調していただいた。また、この地区の優位性としては職住近接というキーワードを頂いたので、具体的にデータなどで示しながら優位性の部分を再整理していただければと思う。
（事務局）
　参考資料 3 において、幾つかデータ等をお示ししている。今後、ご要望に合わせてこの場で参考資料として活用できるような形で用意をさせていただきたい。
（会長）
　よろしくお願いする。

（委員）
　検討部会が 2 つ同時進行していって、この検討会で結節するという進め方かと思うが、両部会間でキャッチボールがないと、検討される内容とがそれぞれに分離してしまうのではないか。今の位置付けで言うと、現実のことをやっているほうと、夢のあることをやっているほうと、といった印象を受けてしまうので、ぜひ夢を語るほうも現実にしっかりと足を着けて語らなければいけないと思うし、それから、現実のほうも具体的に言えばどこまで高度利用していくのか、どういう形での市街地開発、どの範囲まで開発に掛けていくのかということは、その夢との整合性があってほしいと考えている。
（会長）
　この検討会の下に 2 つの部会を立ち上げることにしているが、部会相互の連携をぜひ進めていただきたい。
（事務局）
　まずは部会を立ち上げ、どのような議論になるかというものを事務局で整理をさせていただいて、きちんとそれぞれの部会でどういう議論がなされたかなど、連携して情報共有も行っていきたいと考えている。
（会長）
　部会の役割と、担当していただく委員の方を私から提案したいと思う。1 つ目の都市基盤・開発検討部会、こちらの部会長にぜひとも柏の葉アーバンデザインセンターの副センター長の、都市デザインの分野で大変豊富な経験を持つ前田委員にお願いしたい。また副部会長は、交通計画ご専門の久保田副会長にお願いしたい。特にこの部会では拠点地区の整備に関する技術的な検討や、土地利用や都市基盤を軸にした拠点地区整備の方向性を集中的に検討していただきたいと考えている。2 つ目のにぎわい・活性化検討部会については、部会長に行政計画策定や商店街の活性化などのさまざまなまちづくりにおいて大変豊富な経験をお持ちの杉崎委員にお願いしたい。また、副部会長については、特に防災のご専門家でもいらっしゃる関澤副会長にお願いしたい。こちらの部会では王子駅周辺のにぎわい・活性化、そして防災に関わる検討を中心に、地域全体の将来像を幅広く検討していただきたいと考えている。横の連携はぜひ事務局にもご尽力いただいて進めていただきたい。
（委員）
　北区には、王子の他、赤羽や十条など魅力的な拠点が複数ある。この王子のまちづくりについては、今のこの枠組みの中で検討をしていって、果たして本当にいいのかと心配している。それは冒頭会長からもあったように、王子には魅力的な飛鳥山の緑の資源がある一方で、インフラの面ではキャパシティーが圧倒的に不足している。駅前広場のあり方や、鉄道の地下鉄から JR への乗り換え、臭気の件など含む石神井川のあり方や高速道路との接続をどうするかなど、王子駅周辺にはインフラの面で厳しい課題が多いと認識している。東京全体で見ると、新宿や六本木、品川などの開発が進み、南のほうに全体の重心が移っていっている。そのような状況を踏まえると、北区など北部の区は、今後の見通しとして

厳しい状況になってくると言わざるを得ない。仮に 2037 年にグランドデザインの目標を設定したとしても、従来の延長線上で考えていたのでは恐らく浮上はできないと思ったほうがよい。今後の進め方に関し、従来の東京都の上位計画に沿い、中間とりまとめの方向性の延長線上で考えるというのでなく、抜本的に、王子周辺の交通基盤や土地利用、広域的な東西の接続をどうするか、区役所の跡地をどうするかなど含めて、広い範囲で考えていかなくてはいけいない。東京都、あるいは首都圏の中で王子はどうあるべきか、それから将来的にどう進んでいこうとしているのかなど、広域的な視点も持って、あるべき姿の議論をしっかりしていただきたい。区役所の移転を契機として、あるべき姿、全体像が位置づけられるよう、この検討会でよくご議論、ご検討いただきたい。

（会長）

これは区の政策そのものにも関わる問題かと思うが、先ほど夢がある話というと、いい方向にばっかり皆さん楽天的な観点で物事を捉えることになるかもしれないが、決してそういうことではなく、やはり全体を東京 23 区の動きなども俯瞰する中で、この地区の課題や、ある意味厳しい状況も踏まえて将来像を検討していきたいということと、検討するだけではなくて、ある程度具体的に進めていけるような準備もしていきたいということかと思う。そのためには恐らく北区の力だけでは限界があって、関連する交通事業者の方々のご協力もぜひ得ていかないといけないので、そこはまたぜひよろしくお願いしたい。東京都にもいろいろご協力いただかなければいけないと思うので、ぜひよろしくお願いしたい。

（事務局）

大変貴重なご意見として承る。

（委員）

私も感想めいたことが 2 点ほどある。1 点目は、今述べられたことと重複するが、話を伺っていると、印刷局との話が中身もスケジュールも含めて非常に具体的なところで現実として動いている。今年の夏にはまた新たなステージに向けてという、その感覚と、グランドデザイン全体の感覚とやはりギャップがあって、具体的なものに引きずられてしまって他が全く手が付けられなかったという結果になることが心配だ。２点目は、課題が山積していることについて、当然これまでも北区の中で検討してこられた課題が多いと思うが、川の臭気や放置自転車の問題なども含めてなかなか解決できていない。そういったことを、じゃあどうすればできていくんだろうというところも念頭に置きながらやっていくと、もう少し具体の話と構想と、少し距離を縮めながらグランドデザインとしてまとめることができるのではないか。

（会長）

既にこれまでも検討されていて、なかなか実現しなかったこと、できなかったことから何を学習したのかということをきちんと踏まえた上で、具体的な提案、立案を進めていただきたいということ。課題を関係者間で共有していく、そういう場にもしていきたいと思っている。

（副会長）
　東京都の方に質問がある。北区のグランドデザインや計画と、東京都の上位計画の間に齟齬が生じた場合に、その調和というのはどのように考えたらいいのか。東京都の上位計画にあくまでも沿った形でないとグランドデザインというのは提案できないものなのかどうか。
（委員）
　一般論ではあるが、上位計画に必ずしも位置付けられていなければ地元の事業ができないかというと、必ずしもそうではない。特に開発等については、地元の具体的な動きが先行し、それを地区計画、例えば再開発等促進区を定める地区計画などに位置付け、それを後付けで上位計画に位置付けていくというやり方もある。必ずしも都の上位計画に書いていなければ動けないということではない。全体の方針や考え方など、大きな方向性が合っている中で動くことは可能である。それからもう一つは、今、東京都では、2040 年代を目標にした東京都全体の都市づくりのグランドデザインの検討を今行っているところあり、ぜひこの王子のまちづくりについてもその中に具体的に位置付けをしていきたいと考えている。王子のグランドデザインの目標は当面 2037 年ということになってはいるが、2040 年代以降も見通した形で、王子のあるべき姿についてご議論いただき、具体的な中身についても検討をしていただきたい。
（会長）
　ぜひそちらのほうにも取り上げていただけるような計画にまで仕立て上げたいと思う。
（委員）
　今回の議論の主要なテーマは、駅周辺の拠点の整備の仕方や交通基盤のあり方であるが、防災都市づくりの観点から、木造住宅密集地域の改善というテーマについても議論していただきたいと思う。都では本年 3 月に防災都市づくり推進計画を改定し、今後取り組む具体的な施策として、防災生活道路と命名した幅員 6 メートル級の道路をこれまで以上に密集市街地の中に整備していくことを各区にお願いしているところである。それと同じようなイメージで、このグランドデザインも、防災面での取組方針について、整備の仕方、考え方など極力具体的に打ち出していただくようお願いしたい。
（委員）
　最近王子駅近くに引っ越したところであり、毎朝出勤の時に王子駅南口付近はまだ未開発な発展途上の地域だなと思って見ている。全体のまちづくりに我々がどの程度まで関わるのかは分からないが、とにかく住んでいて便利、それから来ていただく方が喜ぶような、そのようなまちになるべきだと思う。王子にとっての飛鳥山公園を、言ってみれば台東区の上野公園のようなものと考えたときに、それでは JR の王子駅に公園口があるのかというと、南口は確かに公園口と言えそうであるが、お年寄りが行くと、まず階段を上らなくてはいけないなど非常に不便なので、バリアフリーの整備なども進めていただき、年配の方もエスカレーター1 本で自由に飛鳥山公園に行ったり、それから商業地域の出入りもできる

ようになればと思う。今後このまちづくりの協議会の、実際に住んでいる住民としていろいろアドバイスできればと思っている。

（会長）

かなり高低差があったりということで、バリアフリー化やユニバーサルデザインということが各種進められているので、ぜひこちらでも 21 ページの考え方に基づいて方針を出していただきたいと思う。

（委員）

まずこの会議が、王子で生まれ育ったわたしにとって非常にいい会議で、本当にうれしく思っていることを何よりもお伝えしたい。われわれ地元の人間からすると、千載一遇のチャンス。区役所の移転は非常に重要であるが、やはり 20 年ではなくて 100 年先も見据えたような王子のまちづくりをやっていただけるような議論をというご発言もあり、本当にうれしく思っている。ぜひこの委員会が王子のまちのために議論を深めていただくことをこれからも祈っている。

（委員）

区では昔から以前より暮らしと産業の調和の取れたまちづくりということを主張してやってきているが、工場の転出などにあわせて人も転出していくことがこれまであった。どんどんまちが変わっていくと人もいなくなってしまうという実感を持っており、このグランドデザインがなされることによりまちが変わって、これで人がいなくなったよというふうにならないようにぜひしていただきたい。王子には町工場など小さい工場が多くあり、そこの人たちがいなくならないようなグランドデザインをつくっていけたら素晴らしいと思っている。

（会長）

まちは生きものであり年々変化していくが、変化してくことがイコール人がいなくなっていくまちになっていくというのは本当に残念なことで、そうあってはいけない。にぎわいということをキーワードにした部会を立ち上げようとしているので、ぜひそちらのほうで方策等を具体的に考えていただきたい。またあわせて、どういった土地利用を進めていったらいいのかということもぜひ皆さんと共有していきたいと考えている。最後に学識委員の方からご意見頂戴したい。

（委員）

私は、にぎわい・活性化検討部会を担当させていただくが、にぎわいとはどういうイメージなのか、活性化とはどういう状態を活性化しているか、共有を図っていくことはなかなか難しい。ただ、現状の行く先に活性化の姿があるとかにぎわいがあるというよりは、将来の話としては切り替えが必要なのではないかと思っている。次回以降、部会では事務局のほうから一つの考え方が出てきて、それをきっかけに話をすることにはなると思うが、それはそれとして、皆さんなりのにぎわいの姿や活性化の姿をあまり硬直的にならずに、次回来られる方は少し今から準備していただいて、違う方が来られる場合はそのことを伝

えていただいて、にぎわいとはどんな状況か、活性化とはどんな状況なのかという議論が深められると、おのずと進め方が見えてくるのではないかと思っている。

（委員）

今日皆さんの議論を聞いていて 2 つほどある。1 つは、山手線の外側の区の拠点整備ということ。かなり驚かされるようなご指摘もあったが、例えば東急線でいえば二子玉川など駅の近くにオフィスタワーができて、そこから少し離れたところに高級住宅地があるような、コンパクトシティでありながら一種のハブと言えるような事例に負けないようにしたい。もう一つは、今回、キャパシティを上げることがここの委員会のグランドデザインの一つの目標ではないかという話があったが、キャパシティとしては、建物もそれほど大きくないし、インフラの駅前とか駅舎もそれほど大きくない。逆に言うと、フローが重要かと思っている。交通量が非常に多く、後背地があるので、その人たちをここに集められる、ここに働きに来てもらえるような拠点ができれば、かなりいけるのではないか。部会のほうでぜひ頑張りたいと思う。

（副会長）

私も先ほどのご発言にいろいろ感じていたところである。実は埼玉からすると、北区というのは一番身近な区である。埼玉県民でも赤羽に行きつけの飲み屋がある人もたくさんいるので、埼玉県民からするとかなり北区の将来性というのは信じて疑わないところがあったが、確かに東京都全体という観点からすると、そういう危機感はやはり持ったほうがいいということを痛感している。これはこれとして北区の大問題としてお考えいただきたい。また、やはり北区全体の中での王子、という視点は重要であるが、実は今日の資料の中に北区の地図が 1 枚もない。それでは視点があまりにも狭過ぎるような気がしている。例えば新しい区役所ができても、拠点性が高まったときに、じゃあ各拠点からどうやって区役所に来るのかなどの議論は絶対に欠かせないので、次回ぜひお願いしたい。中間取りまとめには、羽田・成田ということも書いてあるが、本当にそれを王子でやるのかという議論を、やらないといけない。そういった議論をこれから、基盤の部会を中心にぜひやっていくべきである。もう一つは、今度はミクロで考えたときに、王子の優位性の第 1 番が交通の要衝となっているが、非常にフローが大きいという面である。つまり、交通空間がものすごく大きくて、都市活動の空間がすごく食われているという面は、これはどうしようもない事実である。皆さん駅の周りは非常に動きにくくなっている。それがまさに今回の大きなテーマではないか。この大きな問題をどうやって解決するかというのが交通基盤上非常に大きなテーマであり、つい最近も線路の上に大きなバスターミナルができたという事例もあり、そういうかなりダイナミックな土地の使い方を考えていかないと解けないのではないかと思っている。その辺の大きな話をぜひこれからしていただきたい。

（会長）

予定の時間となったのでまとめに入りたい。本日は第 1 回目の検討会ということで、皆さまから自由にこの検討会で検討する内容についてのご意見を頂戴した。進め方について

は、事務局から今日具体的に提示をいただいた。この進め方については、皆さまからご了解いただいたと思っているので、この検討会の下に 2 つの部会を立ち上げ、杉崎委員と前田委員にそれぞれ部会長をお務めいただき、進めていただきたい。また、部会間の横の連携についても、ぜひご配慮いただいて進めていただきたい。本日いろいろなご意見を頂戴したが、私の印象としては、かなりこの地域に限定した議論を進めようとする思いが強過ぎている印象を持った。そのため、もう少し北区全体の中での方向性、その位置付け、それから、これから 10 年先、20 年先の、東京がダイナミックに変わっていき都市間競争が非常に激しくなっていく中で、この地域が本当にどういう戦略を取っていかなければいけないのかということもきちんと整理して共有していきたい。それをぜひ東京都のほうにも働き掛けていけるような形にしていきたい。ただ、これまでこの地区に関してはさまざまなことが検討され、なかなかそれがうまく実現に結び付かなかったというような課題も山積している。今回の区役所の移転というのをぜひうまく成功させていくためにどうしたらいいのかということもぜひ皆さんで考えていただきたいと思うが、かといってあまり大風呂敷を広げ過ぎると、目の前の事業そのものがうまくいかなくなってしまうのではないかというような懸念もあるかと思う。ぜひその辺は委員の方々皆さんで共有していって進めていきたいと思っている。よろしくお願いしたい。また、今回がもしかしたらこの地域を整備していくラストチャンスかもしれない。そのことも考えると、北区役所の移転だけに話をとどめずに、これを契機としてこの王子駅をさらに魅力的にしていくための骨格がどうあるべきか、地域がどうあるべきか、それを実現させていくためにはそれぞれ関係者の方がどういう協力をしていかなければいけないのかということをぜひ皆さんと共有しながら進めていきたい。以上、私のほうからまとめとさせていただく。

8．閉会

- 事務局より、会終了後意見等があれば 1 週間を目処に事務局に連絡いただくようお願いの連絡
- 会長より閉会の挨拶
- 事務局より、部会は 6 月から 7 月上旬、第 2 回検討会は 7 月下旬を目処に開催予定である旨連絡